

「ガバナー補佐8ヶ月」

国際ロータリー第2640地区IM8組

ガバナー補佐 岡本 勝士 (堺フェニックスロータリークラブ)



ガバナー補佐を引き受けた以上は『楽しもう』ただそれだけだったのに、「IM8組のIM準備何も出来てない」「4人のクラブがホストでは?」との声がチラホラ、これを聞き誰からとなく「われわれ補佐3人が実行委員会に入ろう。小クラブでも開催できる実績を作ろう」でスタート。米澤、鎌田大先輩との3人のすばらしいチームワークが手前味噌ながら自慢。地区の会合、IM実行委員会などの会合を重ねるうちに、阿吽の呼吸で息ぴったり、時には酒を酌み交わしながら情報交換、他地区の友人からもメール、お引き受けしてよかったが今日まで素直な気持ち。残る期間もご一緒に楽しみましょう。

本年度IMのテーマは“Service Above Self”でしたが、サブテーマとして『災害時私たちは何ができるか』を選択する過程で、堺南西RC猿田会長が「地域の若い人たちにロータリー活動を理解させ災害支援ネットワークつくろう」と口角泡を飛ばしながら語られました。大学生、青年実業家をロータリー活動に参加させるためには、奉仕活動の実践ネットワークが必要であると言うのが、阪神淡路大震災のとき以来持たれている熱き思いのようで、一考に価するご提案だと印象深く受け止めました。

10月9日IMの当日、堺南西RCのメンバーの奥様、ご子息のファミリー参加、他クラブの会員が加わってのにわか実行委員による手際よい会場準備をして頂きました。これも小クラブだったからこそ、ロータリークラブだからこそそのすばらしさ、皆さんありがとう。

IMパネルディスカッションのコーディネーターや地区大会の「クラブ活性化」についてのパネルをお引き受けしたことは非常に勉強になり、ガバナー補佐としての活動に幅を持たせてくれたような気がいたします。

クラブ訪問にあたって卓話の時間をいただいた場合には、『楽しもう』クラブの自慢話を作ろう』だけをお願いしてきましたが、平尾ガバナーが公式訪問で話された「“E・S・S”(enjoy study serve)の場がロータリー」に共鳴いたしました。「楽しいところよ」「いろいろな卓話が聞けて勉強できるよ」「世界的なネットワークのなかで奉仕が出来るよ」といっているほうが簡単明瞭で人々の理解が得やすいかもしれないと「ロータリーはどんなところ?」の問いかけには“E・S・S”と使わせていただいています。